

宮城県保健環境センター年報

平成13年度

ANNUAL REPORT

OF

MIYAGI PREFECTURAL INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENT

No.20 2002

宮城県保健環境センター

は じ め に

このたび、平成13年度における宮城県保健環境センターの業績を取りまとめ、年報として発刊する運びとなりましたので、ご高覧の上ご意見を賜れば幸いと存じます。

さて、平成13年度は、本県において2001年・新世紀みやぎ国体や第1回全国障害者スポーツ大会が開催されるとともに、当センター関連でも第28回環境保全・公害防止研究発表会をはじめ各種の総会・情報交換会、研究会等々行事が重なりかなり忙しい年でありましたが、いずれも成功裡に終わり、心に残る有意義な年でありました。

その一方で、9月11日に発生した米国での衝撃的な同時多発テロは、多くの痛ましい犠牲者を出すとともに、引き続き発生の無差別炭疽菌事件、それに続く我が国での炭疽菌の模倣事件の発生等で、バイオテロリズムをはじめとする健康危機管理体制の整備が改めて求められた年でもありました。

その中であって、当センターのあり方の検討、感染症新法に基づく感染症対策、カキ等に関わるSRSV対策、遺伝子組み換え食品対策及びダイオキシン対策等に取り組む一方、当センターの過去からの調査研究データ、文献及び図書等のデータベースを整備・推進するとともに、ホームページやセンター内のLAN整備等にも職員一丸となって取り組みました。

これら情報関連のシステムについては、さらに充実強化していくことにより、これからの調査研究や業務の効率化、高度化に非常に役立ち、将来に誇れる財産になるものと確信しております。また、当センター職員の高年齢化が進み、このままで行きますと、あと10年で5割強の職員が職を譲ることになりますので、今まで培ってきた保健環境に関する科学的・技術的中核機関としての財産を、これからを担う若い方々に的確かつスムーズに継承するシステムをいかに作っていくかが、大きな課題であると考えております。

今年度に入りましてWカップサッカー開催に関わる感染症対策、韓国産かき混入問題、様々な食品の表示問題、輸入食品の残留農薬や指定外添加物の問題、無登録農薬使用等次から次へと対応すべき問題が出てきております。常日頃から新たな問題に関する情報を収集し、迅速に対応できる体制の強化を推進して参りたいと考えております。

最後になりましたが、今後とも当センターにおける万全な体制の整備・構築を推進し、県民の皆様、関係機関の期待に十分応えられますよう一層の努力をして参る所存ですので、益々のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年11月

宮城県保健環境センター

所 長 森 泰 明

目 次

A 事業概要

総 説

1 沿 革	1
2 機構及び業務分担	1
3 職 員	2
4 決 算	3
5 主要機械器具	3
6 技 術 研 修	6
7 講師等派遣	6
8 学術情報の収集	7

概 況

1 情報管理部	9
2 微生物部	12
3 理化学部	19
4 環境衛生部	22
5 大 気 部	24
6 水 質 部	29
7 試験検査部	35
8 古川支所	37

B 調査研究

論 文

わが国で発生した <i>Salmonella</i> . Enteritidis による食中毒の症状及び潜伏時間の解析	39
阿部 和男 渡辺 丈夫	
Genetic Analysis of Norwalk Virus (NV) Detected in the River Water and the Oysters	44
Yo UEKI Tomikazu ARITA Ikuo GOTO Chizuko SATO Yoko OKIMURA Hiroyuki SHIRAISHI Kazuo AKIYAMA Osamu HASHIMOTO Hiroaki ISHIKO Naokazu TAKEDA Toru WATANABE Tatsuo OMURA	
1999 / 2000シーズンに分離されたAソ連型インフルエンザウイルス変異株の解析	47
後藤 郁男 植木 洋 佐藤 千鶴子 沖村 容子 野呂 知世 秋山 和夫	
宮城県内で発生したレプトスピラ症	51
佐藤 千鶴子 後藤 郁男 植木 洋 渡邊 節 沖村 容子 秋山 和夫 白石 廣行 林 千恵	

宮城県における1歳6か月児神経芽細胞腫マス・スクリーニング事業	
- 10年間のまとめ -	55
菊地 奈穂子 氏家 恭子 白石 廣行 林 富 中村 潤	
土屋 滋	
PCR法を用いた遺伝子組換え食品の検査	59
渡邊 節 佐々木 美江 山口 友美 後藤 郁男 畠山 敬	
齋藤 紀行 白石 廣行	
宮城県内の温泉施設におけるレジオネラ属菌実態調査(第2報)	64
佐々木 美江 山口 友美 畠山 敬 渡邊 節 齋藤 紀行	
白石 廣行	
宮城県内の市販魚介類及び海水・海泥からのピブリオ・バルニフィカスの検出	68
齋藤 紀行 佐々木 美江 山口 友美 畠山 敬 渡邊 節	
白石 広行	
HPLC分析対象農薬の多成分一斉分析法の開発	72
長船 達也 氏家 愛子 曾根 美千代 大江 浩	
魚介類中のPCB濃度と残留形態	75
氏家 愛子 長船 達也 大江 浩	
食品中のアフラトキシン分析法の検討	80
高橋 紀世子 赤間 仁 大江 浩	
OASISカートリッジを精製法に使用したフォトダイオードアレイ検出器付きHPLCによる	
食肉中残留動物用医薬品の同時分析法の検討(第2報)	84
赤間 仁 高橋 紀世子 石川 潔 大江 浩	
ダイオキシン類における簡易分析法の検討	89
中村 朋之 清野 陽子 鈴木 滋 加藤 謙一 高橋 正弘	
生活環境中におけるホルムアルデヒドの挙動に関する調査	93
佐々木 ひとえ 泉澤 啓 佐藤 真貴子 佐藤 好克	
齋藤 善則 高橋 正弘	
畜産系堆肥化施設のLCAによる評価について	98
泉澤 啓 佐藤 好克 齋藤 善則 高橋 正弘	
道路に面する地域における環境騒音測定方法に関する検討(第3報)	
- 除外すべき音の処理方法について -	103
菊地 英男 高橋 誠幸 鈴木 康民	
臭気指数規制による魚腸骨処理場等の評価	108
新垣 康秀 宮城 英徳 菊地 英男 鈴木 康民 梶原 光弘	
降水成分の時間変化と降水強度	111
佐藤 信俊 北村 洋子 中村 栄一 宮城 英徳 鈴木 康民	
北海道・東北における積雪成分調査結果 - 分布と汚染源の推定について -	115
北村 洋子 佐久間 隆 木戸 一博 佐藤 信俊 鈴木 康民	

松島湾櫃ヶ浦干潟調査（第二報）	119
小山 孝昭 清野 茂 阿部 郁子 三沢 松子 阿部 公恵	
吾妻 正道 渡部 正弘 牧 滋 粟野 健 阿部 時男	
佐藤 健一 井上 公人 高村 栄治	
水道施設における生物学的な水質調査	122
那須 務 名村 真由美 郷右近 順子 菅原 優子 川野 みち	
加藤 玲子 梅津 幸司 助野 典義 千葉 圭子 後藤 つね子	
日野 久美子 氏家 雪乃 小林 妙子 及川 敏彦 大場 修	
大庭 和彦	
 資 料	
GIS等を利用した環境情報の提供について	127
吉田 徳行 白取 博志 小室 健一 渡辺 丈夫	
保健環境センターネットワークシステムの概要について	128
白取 博志 吉田 徳行 小室 健一 阿部 和男 渡辺 丈夫	
中村 栄一	
宮城県における新生児マス・スクリーニング	131
菊地 奈穂子 氏家 恭子 畠山 敬 白石 廣行	
宮城県における6か月児神経芽細胞腫マス・スクリーニング	133
菊地 奈穂子 氏家 恭子 白石 廣行	
宮城県における1歳6か月児神経芽細胞腫マス・スクリーニング	136
菊地 奈穂子 氏家 恭子 白石 廣行	
農産物中のカルボスルファン残留実態調査	138
長船 達也 氏家 愛子 赤間 仁 大江 浩	
シプロジニルおよびオキサリ酸の簡易分析法および農産物中濃度	141
氏家 愛子 菊地 秀夫 新目 眞弓 大江 浩	
農産物中のハロフルスロンメチルおよびメタムアンモニウム塩濃度	144
氏家 愛子 菊地 秀夫 新目 眞弓 大江 浩	
平成13年度理化学検査結果	146
理化学部	
大気汚染常時監視データの公開	149
中村 栄一 宮城 英徳 佐藤 信俊 鈴木 康民	
大気中の揮発性有機化合物調査	151
佐久間 隆 小泉 俊一 北村 洋子 木戸 一博 佐藤 信俊	
鈴木 康民	
宮城県内で発生した魚類へい死事故の最近の傾向	153
渡部 正弘 阿部 時男	

伊豆沼における栄養塩類の動態，及びプランクトン類の消長に関する研究	155
栗野 健 吾妻 正道 水谷 登志喜 渡部 正弘 阿部 郁子	
阿部 時男	
クロロフィル測定における前処理操作の影響	157
三沢 松子 阿部 郁子 阿部 時男	
食品中食品添加物検査法の分析精度	160
加藤 玲子 助野 典義	
みやぎ国体に際し実施した弁当虐待試験	162
後藤 つね子 日野 久美子 氏家 雪乃 小林 妙子	

調査研究課題一覧	165
----------------	-----

C 研究発表状況

他誌論文抄録	167
--------------	-----

学会発表等	171
-------------	-----

研究発表会	175
-------------	-----